

目的；人が被服を選択着用する場合、その要因として素材やサイズなどがあげられるが、デザインによることが少なくない。そこで、これら被服に対する嗜好性を検討するにあたって、構成が単純でしかもデザインから作り出される基本的なフォームが分類されやすいスカートにしぼり、フォームからくるイメージと嗜好性に関する調査を行った。これら調査にもとづいて、イメージと嗜好性との関連を明らかにし、嗜好構造について検討を行ったので報告をする。

調査；調査対象：女子大生 200名 有効解答数 160 有効解答率 80.0%

調査期間：1989年11月中旬

調査方法：クラス単位による集合調査法と留置法

調査内容：①基本属性 4項目 ②性格行動 30項目
 ③被服に関する意識 10項目
 ④スカートに対する嗜好性 8項目
 ⑤スカートに対するイメージ 31項目

結果；①スカート6種類のデザイン画をアンケート用紙に示し、着用したいイメージを尋ねたところ、タイトでは知的、フレアーは優雅、プリーツはシンプル、ギャザーは素朴、キュロットはカジュアル、バルーンは個性的となり、それぞれのイメージの違いがみられた。②キュロットについては男性には好ましく思われないとみている傾向が伺えた。③イメージとの関係からは、個性の強いものよりも上品、知的なものに嗜好が高かった。